

萩市企業景況調査

DI方式

平成22年 1月～ 3月期 実績
平成22年 4月～ 6月期 予測

DI (ディフュージョン・インデックス) 方式とは?

DI は各調査項目について判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向(「良い」)の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向(「悪い」)の回答割合が多いことを示す。

◎DI = (増加・好転など「良い」の回答割合) - (減少・悪化など「悪い」の回答割合)

※設備投資は割合 (%)

《調査機関》萩商工会議所

厳しいながらも、マイナス幅縮小。 —若干改善の動きも、先行きは不透明—

景況の概要

平成22年4月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり。(調査対象企業：萩市内60社、回収率93%)

生産・売上 1～3月期の季節要因などから、前期比DIは建設業以外の業種が減少(平均▲37.5ポイント)、前年同期比も同様に減少(平均▲28.6ポイント)となったものの、マイナス幅は縮小した。今後(4～6月期)の見通しでは、観光シーズンを迎える観光関連業やサービス業が増加すると予想している。

収益 生産・売上と同様に、厳しいながらもマイナス幅は縮小した。価格競争や仕入価格上昇などが利益圧迫要因となっている。今後の見通しではサービス業や製造業が増加すると予想している。

資金繰り 実績は業種間でバラツキあり、見通しは厳しい予想となっている。

従業員数 製造業・小売業・観光関連業などで人員過剰となるなど雇用面に過剰感があるとしている。

経営上の問題点 ①需要の停滞 59.3% ②同業他社との競争激化 13.0% ③仕入価格の上昇、人材の確保難 5.6%の順などとなっているほか、消費者ニーズへの対応などが挙げられている。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、先行き不透明感などから全ての業種が悪化(平均▲66.1ポイント)すると予想。特にサービス業・卸売業・小売業などの停滞が目立っている。

景況に関する生の声 ■建設業 3月まで多忙も、新年度は不透明(電気工事、製材)。■製造業 どこも予算縮小で需要がでない(印刷)。材料代が高騰(精密機器)。テナント(百貨店など)の売上は、購入単価低下で不振。3月に入り、観光地を中心に売上増加しつつある(水産加工)。景気は少し動き出した様に思える(精密機器)。■卸売業 荒天で漁獲量が減少(鮮魚)。小売店の減少により販売量が減少(ポン酢)。■小売業 低価格品などでの競争(大型店)。今年度上期は売上・利益ともに減少と予想、当面は経費管理強化で対応する(大型店)。単価下落は止まったが、販売点数が減少傾向(大型店)。■サービス業 デフレ進行が実感できる(飲食店)。■観光関連業 値引き要請多く、売上単価減少(ホテル)。景気回復の声が聞かれるが、レベルは低く改善に至っていない(萩焼店)。萩のみではジリ貧のため、首都圏域へ販路拡大中(工房)。

項目 / 業種		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業	平均	前年平均	前々年平均
生産・売上	前期比	77.8	▲70.0	▲40.0	▲44.4	▲88.9	▲55.6	▲37.5	▲54.4	▲44.8
	前年同期比	22.2	▲20.0	▲10.0	▲55.6	▲55.6	▲55.6	▲28.6	▲57.9	▲29.3
	22年4月～6月期見通し	▲88.9	0.0	0.0	▲55.6	22.2	22.2	▲16.1	▲19.3	▲7.0
収益	前期比	11.1	▲50.0	▲50.0	▲44.4	▲55.6	▲66.7	▲42.9	▲50.9	▲47.4
	前年同期比	0.0	10.0	▲40.0	▲22.2	▲11.1	▲44.4	▲17.9	▲50.9	▲39.7
	22年4月～6月期見通し	▲66.7	10.0	▲40.0	▲44.4	22.2	0.0	▲19.6	▲26.3	▲26.3
資金繰り	前期比	▲22.2	▲10.0	10.0	0.0	0.0	▲33.3	▲8.9	▲31.6	▲32.8
	22年4月～6月期見通し	▲11.1	▲10.0	▲30.0	▲33.3	▲11.1	▲44.4	▲23.2	▲26.3	▲24.1
従業員数	22年3月末	0.0	▲30.0	▲10.0	▲11.1	0.0	▲11.1	▲10.7	▲7.1	▲8.6
設備投資	(実績)	22.2	20.0	0.0	11.1	33.3	0.0	14.3	10.5	12.1
	(計画)	0.0	10.0	20.0	0.0	22.2	0.0	8.9	13.8	13.8
業界動向		▲77.8	▲10.0	▲80.0	▲77.8	▲88.9	▲66.7	▲66.1	▲73.7	▲75.9